

判例刑事手続法 [補訂版]

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/34271

事 項 索 引

		写しの証拠能力	305
あ		え	
足利幼女誘拐事件	245	疫学的証明の拘束力	251
安藤・斉藤事件	102, 150		
い		お	
石井記者事件	237	押収	33
移送	403	押収拒絶権	133
一事不再理効	335	大阪覚せい剤事件	39, 308, 310
— と形式裁判	337	大阪麻薬事件	136, 307, 317
— と実体裁判	〃	大津覚せい剤事件	307, 312, 314, 315
— と審判不開始決定	338	大森傷害事件	164
— と免訴判決	〃	公の弾劾	6
— が及ぶ範囲	〃	沖縄ゼネスト事件	228
一事不再理効の根拠	335	おとり捜査	42
— の内容的効力説	〃		
— の手続的効力説	〃	か	
（公訴権消滅説と二重の危険説）	〃	管轄違いの判決	327
一般人との接見交通権	147	鑑定	138
一般的指揮権	14	鑑定留置	138
一般的指示権	〃	鑑定処分	138
違法収集証拠排除法則の意義	307	鑑定結果の拘束力	252
違法収集証拠排除法則の根拠	309	鑑定書の証拠能力	294
— 憲法保障説	〃	観念的競合の時効期間	170
— 司法廉潔性説	〃	関連性（自然的関連性）	242
— 抑止効説	〃	き	
違法捜査の波及効	312	期日間整理手続	195, 207
違法捜査による起訴	164	偽計による自白	265
違法逮捕と勾留	83	希釈化の法理	314
印藤巡査殺し事件	247, 275, 327	起訴・不起訴処分	24
う		起訴議決	161
「疑わしきは被告人の利益に」	252	羈束力	330
内田事件	152	起訴後の勾留	25, 70

起訴後の取調べ	112	緊急配備検問	48
起訴裁量権	9, 159		
起訴裁量権の逸脱による起訴	164	く	
起訴状一本主義	183	具体的指揮権	14
起訴独占主義	157	具体的防御説	214
起訴変更主義	160	区分審理	363
起訴便宜主義	29, 159	熊本水俣病事件	169
起訴法定主義	159	け	
起訴猶予	24, 160	警戒検問	50
起訴率	160	警察官	12
既判力	332, 337	— の権限	12
基本的人権の保障	1	— の種類	13
義務的保釈	192	警察犬による臭気選別	245
求刑	27	刑の量定不当（控訴理由）	383
糾問的捜査観	28	刑の変更（破棄事由）	396
供述拒否権	109, 141	形式裁判	319
供述証拠	242	形式判決	327
供述不能	288	形式判決の拘束力が及ぶ範囲	333
強制、拷問による自白	261	刑事手続	23
強制採尿の可否と手続	139	刑事訴訟法の目的	1
強制採尿令状による強制連行	133	刑事補償	77, 319
強制処分	32, 33	刑事免責	31, 245
強制処分法定主義	32	継続審理義務	3
強制捜査	23, 32	刑罰法規の不遡及	2
京都府学連デモ事件	40	決定	318
共同被告人のための破棄	398	厳格な証明	246
共犯者の供述（自白）	273	嫌疑なき起訴	163
挙証責任	249	現行犯逮捕手続	69
— の転換	〃	現行犯逮捕の要件	65
切り違え尋問事件	266	現行犯人	66
緊急執行	61	訴訟遅延行為の理由説明要求・処置請求	3
緊急逮捕	〃	検察官	9
— の手続	62	— と司法警察職員の関係	13
— の要件	〃	— の種類	10, 13
— の合憲性	63	— の職務権限	9

— の身分保障	11	公訴権濫用論	163
検察官送致	25	公訴事実	178, 179
検察官請求証拠の開示	200	— の単一性	221
検察官同一性の原則	10	— の同一性	212, 221
検察官に対する出頭命令等	3	公訴事実同一性概念の機能	213
検察官面前調書	283	公訴事実対象説	179
検察審査会の議決	161	公訴時効の根拠	167
検視	51	— 実体法説	〃
検証	122	— 訴訟法説	〃
検証に対する準抗告の可否	407	— 競合説	〃
検証調書	291	— 新訴訟法説	〃
現場写真の証拠能力	305	公訴時効	
権利（必要的）保釈	190	— の期間	168
牽連犯の時効起算点	170	— の起算点	169
		公訴時効の停止	170
		— 訴因不特定による公訴棄却	171
		— 公訴事実を異にする訴因変更	〃
		— 起訴状謄本不送達	172
		公訴時効停止の始期	170
		— 犯人が逃げ隠れている場合	172
合意書面	302	公訴提起	25
公開裁判	186	公知の事実	248
公開主義	186	交通検問	49
公共の福祉の維持	1	口頭主義	187
抗告	404	公判期日外の証人尋問	120
交互尋問	238	公判中心主義	186
控訴	379	公判手続	26, 210
控訴棄却の判決	393	— の更新	363
控訴手続	380	公判の原則	186
— 控訴提起の方式と期間	〃	公判前整理手続	195
— 控訴趣意書の提出	〃	— と予断排除の原則	197
— 控訴の理由	381	— と証拠能力の調査	198
控訴審における変更訴因に対する判決	395	— と公判手続の特例	210
控訴審の審理の方法と内容	387	公判前整理手続前置主義	359
公訴棄却		公平な裁判所	2
— の決定	328, 398		
— の判決	328		
公訴権	157		

— 辞退事由	〃	指揮権の発動	11
— 事件に関連する不適格事由	353	事件受理事由（上告審）	402
裁判員等の選任手続	353	事件単位の原則	76
裁判員等の解任	357	— と刑事補償	77
— 解任事由	〃	事実誤認（控訴理由）	385
— の解任手続	358	事実の取調べ（控訴審）	391
裁判員等の権限と義務		自首	23, 327
— 公判期日への出頭	361	私人訴追主義	158
— 審理への列席	362	私選弁護士	144
— 尋問権	〃	実況見分	33
裁判員等の保護措置	371	実況見分調書の証拠能力	292
裁判官	5	執行停止	75
— の種類	6	実体裁判	319
— の身分保障	〃	実体的真実主義	2
— の除斥・忌避・回避	7	— 消極的真実主義	〃
裁判官面前調書	282	— 積極的真実主義	〃
裁判所	5	自動車検問	48
— の職務権限	〃	自白	257
— の種類	6	偽計による —	265
裁判書	330	強制、拷問による —	261
裁判所書記官	5	手錠を施したままの取調べによる —	263
裁判所に顕著な事実	249	不当に長い拘禁後の —	261
裁判所（官）の検証調書の証拠能力	290	弁護士選任権の不告知等による —	267
裁判の外部的成立に伴う効果	331	弁護士選任通知の妨害による —	268
罪名	178	黙秘権の不告知等による —	266
裁量（職権）保釈	191	約束による —	264
酒酔い鑑識カードの証拠能力	292	長時間の取調による —	37
差押え	122	自白と違法収集証拠排除法則	315
差し押さえるべき物の特定	126	自白の証拠能力の規制	257
狭山事件	90	— 虚偽排除説	257, 258
参考人（第三者）	35	— 人権擁護説	258
山谷暴動事件	40	— 違法排除説	258, 259
		自白の証明力の規制	257
		自白法則	〃
		自判	394, 403
し			
事案の真相解明	1		

司法警察員	12, 22	上告手続と審理方式	399
司法警察員送致	10, 23	上告理由	〃
司法警察職員	12	上訴	373
一般 ——	〃	上訴権者	373
特別 ——	〃	上訴の利益	374
司法巡查	12, 61	上訴手続	375
氏名の黙秘権	141	一部上訴	〃
釈放	25	上訴の放棄・取下げ	376
写真撮影・録画	39～41, 132	上訴権の回復	377
終局裁判	319	証拠決定	234
自由心証主義	251	証拠裁判主義	242
— の例外	〃	証拠書類	239
— 「自由な判断」の意義	256	証拠調べの範囲	233
自由な証明	247	証拠調べ請求	232
取材フィルムの捜索・差押え	124	— の時期	〃
主張関連証拠	206	— の書面の提出	〃
— の開示	〃	— の方式	〃
準起訴（付審判）手続	162	— の順序	〃
準現行犯人	67	— の義務	233
準抗告	406	証拠調べ請求の制限（裁判員裁判）	211
準備手続	192	証拠能力	242
召喚	26	証拠物	239
証言拒絶権	236	証拠物たる書面	240
証拠	242	証拠方法	242
— の標目	255, 326	証拠保全請求権	155
— の新規性（再審）	410	証人	120
— の明白性（再審）	412	— の遮蔽措置	238
証拠開示	192	— の保護	〃
証拠開示命令	207	証人尋問	235
— の対象となる証拠の範囲	〃	— の立会権	121
証拠提示命令	208	— の方法	237
— の対象となる証拠の範囲	209	証人尋問調査	290
証拠禁止	243	証人審問権	2
上告	398	証人適格	236
上告棄却判決・決定	403	証明の不要事由	248

証明予定事実	199, 205	絶対的控訴理由	381
— の明示と黙秘権の関係	206	善意の例外	309
証明力の規制	269	宣告刑	325
証明力を争うための証拠	301	宣誓	238
職務質問	45		
— と任意捜査の関係	〃	そ	
— の限界	46	訴因	179
所持品検査	48	— の拘束力	158, 180
職権主義	188	— の追加変更	212
職権証拠調べ	189	— の撤回	〃
職権破棄判決（上告審）	402	— の同一性	213
処断刑	325	— の特定方法	181
白鳥事件	280	訴因の意義	〃
人権の保障	1	— 法律構成説	〃
親告罪の告訴	173	— 事実記載説	180
— の追完	174	訴因制度	179
親告罪の告訴のない捜査の適否	173	訴因対象説	179
真実主義	2	訴因変更	212
心証（証明）の程度	253	— の要否	213
迅速な裁判	3	— の可否	221
身体検査	138	— の許否	227
— 捜索としての身体検査	〃	訴因変更命令	228
— 検証としての身体検査	139	— の義務	229
— 鑑定処分としての身体検査	〃	— の形成力	〃
診断書の証拠能力	294	即時抗告	406
人定質問	26, 27, 238	捜査の構造	30
審判の対象	179	捜査の端緒	45
— 公訴事実対象説	〃	捜査機関	30
— 訴因対象説	〃	捜査機関の押収処分物の還付請求権	407
		捜査機関の検証調書の証拠能力	291
せ		捜索	122
精密司法	345	捜索場所の特定	126
声紋鑑定	244	捜索・差押え現場の写真撮影	132
接見交通権	147, 148	捜索・差押・検証の必要性	124
接見指定権	148	捜索・差押・検証令状の執行	128
		— の範囲	130

— に必要な処分	132	高輪グリーンマンション事件	35, 36, 298
捜索・差押・検証令状の呈示	128	択一的認定	320
捜査照会	33	蛸島事件	86
捜査比例の原則	34	弾劾裁判による裁判官の罷免	6
捜査報告書の類型証拠該当性	204	弾劾証拠	301
争点及び証拠の整理	199	弾劾的捜査観	28
送達	26, 318, 354	弾劾的訴追観	157
送致	24, 25		
即時抗告	406	ち	
訴訟関係人	5	チッソ水俣病補償請求関連傷害事件	166
訴訟指揮権	194	千葉大チフス菌事件	252
訴訟条件	167	抽象的防御説	214
訴訟手続の法令違反（控訴審）	382	直接主義	187
訴訟能力	15	— 直接証拠主義（実質的直接主義）	188
即決裁判手続	187	— 直接審理主義（形式的直接主義）	〃
		調査の範囲（控訴審）	388
た		つ	
第1回公判期日後の取調べ	114	通常逮捕	58
第1回公判期日前の証人調べ請求	120	通常抗告	405
第1回公判期日までの準備手続	26	罪となるべき事実	181
第1回公判期日前の鑑定	360		
第1審判決後の刑の変更	395	て	
第三者に対する出頭要求	33	DNA鑑定	245
第三者の取調べ	120	訂正判決	404
逮捕	57	停止行為	45, 46
逮捕の際の第三者規制	58	TBSビデオテープ差押処分事件	125
逮捕・勾留一回性の原則	78	適正手続	2
逮捕状	58	手錠を施したままの取調べ	263
— の呈示	60	電気通信傍受の特例	122
— の法的性格	59	伝聞供述	297
逮捕状請求者と逮捕権者	〃	— の排除手続	〃
逮捕状発付	〃	伝聞性	279
逮捕前置主義	71	伝聞証拠	〃
逮捕に対する準抗告の可否	407	伝聞法則	278
高田事件	3, 4	— の根拠	〃

伝聞法則の例外	281	ニセ電話事件	41, 245
		日石・土田邸事件	263
と		日大闘争事件	229
同意された違法収集証拠	316	2年以内の訴訟終結目標	4
同意書面	299	任意性の調査	298
同意の擬制	300	— の趣旨	〃
— の趣旨（消極説と積極説）	〃	— の時期、方法	〃
同意の法的性質	299	任意捜査	32
当該事件の証人尋問調書の証拠能力	290	— の原則	〃
東京麻布連続放火事件	87	— の方法	〃
当事者	5	— の限界	〃
当事者主義	188	— の適法性基準	33
当事者主義的捜査観	28	任意同行	45
東大安田講堂事件	301		
道交法による事故報告義務の合憲性	142	は	
特信情況		博多駅事件	125
— 絶対的 ——	285	白山丸事件	182
— 相対的 ——	283	破棄差戻し	393, 403
特信文書の証拠能力	296	破棄判決	393, 401
特別抗告	406	— の拘束力	378
独任制官庁	10	— 破棄の範囲	397
独立入手源の法理	314	八丈島事件	261
取調べの可視化	115	罰条	179
— 肯定論	〃	— の変更	212
— 否定論	116	判決	318
取調べ権限	97	判決書	330
取調べ受忍義務	29	判決宣告	27, 330
— の根拠	102	判決の拘束力の本質	332
— の範囲	104	判決の拘束力が及ぶ範囲	332
取調べ受忍義務否定論	100	犯行再現実況見分調書の証拠能力	293
取調べの必要性と逮捕の必要性	60	反対尋問権	278
都立富士高校放火事件	88, 106, 108	犯罪	
毒樹の果実	314	— の軽重	159, 160
		— の情状	〃
に		「犯罪行為が終わったとき」の意義	170
二重の危険	335		

犯罪の証明	320	非終局裁判	319
		非常上告	418
		筆跡鑑定	244
		ビデオテープの証拠能力	305
		ビデオリンクによる証人尋問録画の証拠能力 ²⁹⁴	
		人質司法	26, 190
		必要的弁護制度	146
		必要的破棄判決（上告審）	402
		人単位説	76
		秘密録音	43
		百日裁判規定	4
		非両立性基準（公訴事実の同一性）	222
		広島吉田町覚せい剤使用事件	182
		ふ	
		不可避的発見の例外	309
		不起訴	24, 25
		不起訴処分の是正制度	161
		福岡一家殺人事件	288
		不告不理の原則	158
		付審判手続	162
		不当に長い拘禁後の自白	261
		不利益変更の禁止	398
		部分判決	363
		フロッピーディスクの差押方法	131
		分断禁止の原則	78
		へ	
		別件捜索・差押えの適法性	123
		別件逮捕・勾留	85
		— 本件基準説	〃
		— 別件基準説	87
		弁解聴取	25, 94
		弁護士	17
		弁護人	〃
		— の資格	〃
犯罪の証明	320		
ひ			
被害者等	19		
— の刑事手続参加の是非	21		
被害者訴訟参加制度	19		
被害者等の意見陳述	240		
被疑者	15		
— の訴訟能力	〃		
— の刑事手続上の地位	16		
被疑者取調べ	94		
— の根拠	97		
— の時期・方法	109		
被疑者取調べの刑事訴訟法上の意義	94		
— 弁解聴取型取調べ	〃		
— 矛盾確認型取調べ	95		
— 自白追求型取調べ	〃		
被疑者取調べの刑事政策上の意義	95		
被疑者取調べの弊害	97		
非供述証拠	242		
被告人	15		
— の刑事手続上の地位	16		
— の訴訟能力	15		
— の出頭義務	387		
— の退席			
— の取調べ	112		
被告人の特定	178		
— 表示説	〃		
— 意思説	〃		
— 行動説	〃		
— 実質的表示説	〃		
被告人の供述書・供述録取書の証拠能力	295		
被告人の公判供述録取書の証拠能力	295		
被告人質問	27, 241		

— の包括代理権	18	裁量（任意的）——	191
— の独立行為権	〃	ポリグラフ検査	243
（独立代理権と固有権）		翻訳	120
弁護人選任権	143		
弁護人選任権の不告知による自白	267	ま	
弁護人選任通知妨害による自白	268	麻酔による供述	244
弁護人との接見交通権	148	み	
— 法令上の制限	〃	三郷市外国人アパート放火事件	93
— 捜査の必要上の制限	〃		
弁護人に対する出頭命令等	3	む	
弁護人の同意の効力	299	無罪の推定	249
弁論主義	186	無罪判決	327
		— の公示	417
ほ		め	
法321条書面	281	命令	318
包括代理権	17	免訴	328, 337
傍聴の自由	186	免訴の判決	328
法定された証拠調べ	235		
冒頭陳述	230	も	
冒頭陳述義務	210	黙秘権	109, 141
冒頭手続	27	黙秘権の告知	109
報道の自由	124, 186, 372	黙秘権の不告知による自白	266
法令の解釈	350		
法令の適用	〃	や	
法令適用の誤り（控訴理由）	382	約束による自白	264
補強証拠	270	ゆ	
— を要する事実の範囲	〃	有形力の行使	33
（罪体説と実質説）		有罪判決	320
— による証明の程度	272		
（絶対説と相対説）		よ	
補強証拠適格	〃	要証事実	246
補強法則	269	抑止行為	48
保釈	190	余罪の証拠物差押えの適法性	123
義務的 ——	192	余罪の取調べ	107
権利（必要的） ——	190		

— 事件単位説	107	連日開廷・継続審理義務	3
— 令状主義潜脱説	108	連日長時間にわたる取調べ	36, 262
予審	15, 96		
余事記載	184	ろ	
予断排除の原則	183, 197	録音の証拠能力	305
予断排除のための諸制度	256	ロザール事件	38, 315
よど号ハイジャック事件	198	ロッキード事件丸紅ルート	246
米子銀行強盗事件	38, 39, 48	論告	27
		わ	
り		和光大学内ゲバ事件	67, 136
立証趣旨	251		
理由の明示	326		
量刑	325		
領置	33		
る			
類型証拠の開示	200		
— の必要性和弊害	202		
— 請求証拠を識別するに足る事項	204		
— に関する裁定手続	207		
類型的信用性（法律的関連性）	243		
累犯前科	247		
れ			
令状記載事項	126		
令状主義	32		
令状によらない捜索・差押え・検証	134		
— の根拠（相当説と緊急処分説）	〃		
— 「逮捕する場合」の意義	〃		
— 「逮捕の現場」の意義	135		
— の範囲	137		
令状による捜索・差押え・検証	122		
— 別件捜索	〃		
— 余罪の証拠物差押え	〃		
— 必要性	124		
令状の発付	127		